人間環境活性化研究会会報　〈第 15 号）1998－10－01 発行

『21 世紀に与えられた課題』

顧問　　中村健二郎

あと一年半足らずで西暦 2000 年を迎え、さらに一年で所謂 21 世紀の到来であります。私はごく一般的な日本人で家の宗教は真言であります。従って、ここで西暦に基く世紀末的に事象を捉える積もりはありません。しかし、少しく過去を振り返つて、そして 21 世紀を考えて見たいと思います。

私が大学を卒業したのは昭和 26 年でありますので，丁度今世紀の半ばでありました。トランジスターが開発され電子技術は一新されました。石油化学が発達し多くの新しい素材が生活の中に入って来ました。理論物理の研究は著しく進歩し、クリーンなエネルギー源としての原子力の平和利用に弾みがかかりました。昔の高等学校の教科書では不可能とされていた、コヒーレントの光が開発され、レーザーと名付けられ現実の物として多くの分野で有効に活用されております。

当時日本の戦後の復興と、この科学技術の素晴らしさの中に在って、あと数十年後に迎えるであろうところの 21 世紀には、どんな素晴らしい世の中が構築されるのだろうかと考え、自分自身それまで生きて、その幕開けを果たして見る事が出来るであろうかと期待したものでありました。　その後更に、宇宙，分子生物学等、あらゆる分野での研究は着々と進み、その応用される技術も着実に進歩していると考えられ、ご同慶に堪えないところであります。

ハートの会は、こうした成果を求めるあまり招来する環境への影響を心配し、“人間と人間”“人間と自然〃“人間と物質〃等々の問題を科学技術とその因って来たる理論の正確な認識のもと、お互いに勉強する会とし、安立一郎さんの熱心なご努力のもと、綿密な計画により実現された集いであると理解しております。

さて期待される 21 世紀の幕開けを目前にして、私達の周辺は環境問題をはじめとして、政治、経済、そして行政の面においても何やらすっきりしない問題が多発している現実に直面しております。　冒頭に申し上げました様に、これを世紀末的現象と云う低い次元に捉えず、しっかりした認識のもと解決策を研究する事こそハートの会の目的とするところと考えます。

太陽系、その中で私達の生存する地球の誕生は杓 46 億年前に遡ると言われております。人類が現在の人間の様になったのはずっと後の事だと言われておりますが、西暦の 2000 年間は地球の年齢に比べれば 2 百 30 万分の 1 と云うことになります。また、一世紀即ち 100 年間は 4 千 600 万分の 1 となります。地球が誕生し海には水が湛えられ、生命が海水中で生れ、やがて陸地の条件が整い生物が地上に現れたと言われております。海中の藻が光合成によって作り出す酸素が天空に昇り、オゾン層を成形し、火山活動に因って炭酸ガスは地球の温暖を保ち、且つ海水の凍結を防いだとも言われています。陸地に草木が繁茂し生物が棲息し始めるこの条件が整うまでに、一体何年かかったのかと見ても、私達が地球を大切にしなければならない事は言うに及びません。

現在の人類を考えて見ても萬物の霊長と言われる神業としか思えない極限まで進化した生命体、それは言語を持ち、その考え出す頭脳は幾多の文化を創り出し、文明を世界にもたらしました。私達はこの文化と文明の恩恵に浴して存在している事をあらためて認識し決して忘れてはならないと思います。

今世紀即ち 20 世紀は文明の発展が大きく促進された世紀と言えると思います。21 世紀はその文明によって人間社会の秩序とその築いて来た貴重な生活文化を破壊する事のないようしっかりした規範を各分野において整備し、人類が正しくそれを実践する世紀ととらえる事こそ肝要と思います。

そして次の世代を担う人達の教育の場においてもこの規範は最も大切な事として取り上げられるべき世紀でなければならないと考えます。ヨーロッパにおいては産業革命に伴った公害を経験し、それを克服して来ました。高度に発達した文明社会において、日本は今ここにもっと大きな大切な試練に直面していると思います。これを克服し、新たなる規範を整備する事こそ 21 世紀に与えられた課題と考えます。

政治，経済，行政等の分野においても、夫々に正しい規範を持ち実行される事が、秩序のある整った社会を創り出す（取り戻す）事に繋がる大切な事柄だと思います。　それには努力が必要であり、その努力があってはじめて人間社会には豊かさを求める事が許されると思います。

ハートの会がその真価を発揮する世紀、それが 21 世紀である事を念願致します。

（桜護謹株式会社　会長兼社長）